

活動記録書

開催日： 令和5年11月10日(金) 天候 小雨	開催テーマ： 亀ヶ谷、扇ヶ谷の名刹一家康ゆかりの寺
開催場所：鎌倉市	記入者：横山美智男
参加人数：会 員 21名 ビジター 0名 計 21名	
<p>実施内容（実施の項目、方法、効果・成果、宿題 など）： コース：北鎌倉駅(集合)～明月院～(長寿寺)～亀ヶ谷坂切通～英勝寺～JR 鎌倉駅（解散）</p> <p>今回は亀ヶ谷、扇ヶ谷の名刹を訪ねる。北鎌倉駅に集合、小雨が降り始めた中を明月院に向かう。明月院(臨済宗建長寺派)は山内首藤経俊が平治の乱で戦死した父首藤俊道の供養のために建てた明月庵が起源とされる。その後、北条時頼がこの地に最明寺を建てたが時頼の死後に廃絶。時頼の子の時宗が禅興寺を創建した。室町時代、禅興寺の塔頭として山内上杉氏の祖で法名を明月院と号した上杉憲方が建てた寺が明月院だとされる。参道を上がると聖観世音菩薩を祀る本堂と枯山水の庭があり、左上方には開山の密室守厳像を安置する宗猷堂がある。左の山際には鎌倉最大級のやぐらがあり、上杉憲方の墓といわれる宝篋印塔が、奥の壁には釈迦如来、多宝如来、十六羅漢と思われる浮彫りの像がある。総門の先に宝形造の時頼を祀るお堂と宝篋印塔がある。</p> <p>次の探訪先の長寿寺は雨のため拝観中止となった。長寿寺(臨済宗建長寺派)は足利尊氏が邸跡に建武三年(1336)創建し諸山第一位の列に定めた。延文三年(1358)尊氏の没後、初代鎌倉公方足利基氏によって七堂伽藍を備えた堂宇が建立された。その後、仏殿などが焼失するが再建された。今回は山門への階段上から庭を覗き、亀ヶ谷坂からも境内を眺め次回を待つ。</p> <p>亀ヶ谷坂は鎌倉七切通の一つ。昔は急な坂で、ある時、建長寺の亀が「たまにはこの世を見てみたい」と、この坂を上って行ったが、途中で引き返してきたことから亀返坂と言われ、いつの頃からか亀ヶ谷坂になったという話が伝わっている。坂の途中の六地藏は目線より高いところにあり、昔の道路面は今より高かったと想像される。</p> <p>扇ヶ谷は『吾妻鏡』に地名はなく、当時この地域の総称は亀谷と呼ばれていた。室町期に関東管領上杉定正が屋敷を構え、「扇谷殿」と称せられるようになってから亀ヶ谷の地名がすたれ、扇ヶ谷の名が地域全体の名称となった。</p> <p>亀ヶ谷坂を下り岩船地藏を左に曲がり、お稲荷様、阿仏尼の供養塔の傍らを通り英勝寺(浄土宗)に到着。現存する鎌倉唯一の尼寺で、開基の英勝院尼は徳川家康の寵愛を受けた「お勝の方」。先日放送の大河ドラマでは豊臣家との重要な交渉役として描かれていた。家康逝去の後出家し「英勝院」と改めた。水戸頼房の養育係として、御三家のひとつ水戸徳川家の基礎を築いた。20年後、三代将軍家光に願い出、寛永十三年(1636)太田道灌の屋敷跡と言われる、家ゆかりの扇ヶ谷に仏殿が完成した。英勝院尼の没後は水戸家の姫君が代々住持を務め、「水戸御殿」と呼ばれた。仏殿(国重文)の軒を飾る「墓股」には十二支の装飾彫刻がある。山門(国重文)は関東大震災で倒壊、破損した部材を買い受けた間島弟彦氏が鎌倉小町の自宅庭に復元していた。平成十三年に解体され部材が英勝寺に戻され、平成二十三年に88年ぶりに復興された。</p>	
<p>参加者の状況・意見など</p> <p>雨予報の影響か参加者が少なめであった。出発直後から雨となり、長寿寺を拝観できなかったのは残念である。英勝寺の拝観は通例探訪の木曜日が休日のため長く懸案であったが、今回拝観できて良かった。</p>	
<p>次回の予定：</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年11月20日(月)10時 かながわ信用金庫金沢文庫支店付近 バス探訪「国宝運慶仏と北条氏ゆかりの寺を巡る」 令和5年12月7日(木)10時 京急・神奈中バス停「大道中学校前」 定例探訪「鎌倉武士たちも歩いた塩の道」 	